

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	P C 演習 I	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	伊藤由美子		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ ビジネス/自然ガイド・環境保全 /自然環境保全/山岳プロ/クライ ミングインストラクター/アウトドアインストラ クター	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	Microsoft Wordを用いて簡単なビジネス文書作成ができる。同時にパソコン、ワープロ、ビジネス文書に関する基礎的な技能を習得する				
学習目標 (到達目標)	サーティファイWORD文書処理技能認定試験3級 合格				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	wordクイックマスター、WORD文書処理技能認定試験3級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	【1日目】パソコンのスペックチェック、問題のダウンロード、Word基本操作、7月までの課題提示（4月3時間強）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
2	【2日目】Word基本操作、9月までの課題提示（7月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
3	【3日目】Word基本操作、問題演習（9月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
4	【4日目】問題演習（9月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
5	【5日目】問題演習（9月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
6	【6日目】検定		パソコン		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			4月と7月に提示する課題は必ず行うこと。 それにより着実にレベルアップします。自習は重要な学習ですので、自宅でも日々問題に取り組んでください。		
実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。				

科目名	P C 演習 II	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	伊藤由美子		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ ビジネス/自然ガイド・環境保全 /自然環境保全/山岳プロ/クライミング インストラクター/アウトドアインストラ クター	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	Microsoft Excelを用いてビジネス社会における簡単なワークシートの作成とデータ入力を行うことができる。同時にパソコン、表計算、ビジネス図表に関する基礎的な技能を習得する				
学習目標 (到達目標)	サーティファイEXCEL表計算処理技能認定試験3級 合格				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	excelクイックマスター、EXCEL表計算処理技能認定試験3級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	【1日目】パソコンのスペックチェック、問題のダウンロード、Excel基本操作、7月までの課題提示（4月3時間強）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
2	【2日目】Excel基本操作、9月までの課題提示（7月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
3	【3日目】Excel基本操作、問題演習（9月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
4	【4日目】問題演習（9月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
5	【5日目】問題演習（9月3時間程度）		パソコン、筆記用具、テキスト、問題集		
6	【6日目】検定		パソコン		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			4月と7月に提示する課題は必ず行うこと。 それにより着実にレベルアップします。自習は重要な学習ですので、自宅でも日々問題に取り組んでください。		
実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	英会話Ⅰ	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ キャンプ・登山/自然環境保 全/自然ガイド・環境保 全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身につけるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	日常会話に必要な最低限の英語力を身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	適宜授業内容に関するプリントを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Getting Acquainted		会話と板書による学習		
2	Getting Acquainted		会話と板書による学習		
3	Experiences		会話と板書による学習		
4	Experiences		会話と板書による学習		
5	Sport & Lisure		会話と板書による学習		
6	Sport & Lisure		会話と板書による学習		
7	Shopping & Money		会話と板書による学習		
8	Shopping & Money		会話と板書による学習		
9	Food		会話と板書による学習		
10	Food		会話と板書による学習		
11	Travel		会話と板書による学習		
12	Travel		会話と板書による学習		
13	Movies & Television		会話と板書による学習		
14	Movies & Television		会話と板書による学習		
15	Work		会話と板書による学習		
16	Work		会話と板書による学習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。		
実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	英会話Ⅱ		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/ キャンプビジネス/自然環境保 全	対象学年	2	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。					
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショッピング・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。 					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	語彙力(自然)		会話と板書による学習			
2	語彙力(道具)		会話と板書による学習			
3	語彙力(天気・地形・病気やケガ・体)		会話と板書による学習			
4	ガイディングに必要な英会話(グリーンシーズン)		会話と板書による学習			
5	ガイディングに必要な英会話(スノーシーズン)		会話と板書による学習			
6	ガイディングに必要な英会話(ガイディングの一連の流れ) (挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など)		会話と板書による学習			
7	5分間の英語発表(ガイディングに関する内容)		発表者は事前に準備しておくこと			
8	5分間の英語発表(ガイディングに関する内容)		発表者は事前に準備しておくこと			
9	アウトドアショップに必要な英会話(接客・商品説明・電話対応・会計・数字やお金の数え方)		会話と板書による学習			
10	アウトドアショップに必要な英会話(接客・商品説明・電話対応・会計・数字やお金の数え方)		会話と板書による学習			
11	飲食店で必要な英会話(接客・誘導→注文→配膳・予約・会計)		会話と板書による学習			
12	飲食店で必要な英会話(接客・誘導→注文→配膳・予約・会計)		会話と板書による学習			
13	宿泊施設に必要な英会話(受付・誘導・案内)		会話と板書による学習			
14	宿泊施設に必要な英会話(受付・誘導・案内)		会話と板書による学習			
15	5分間の英語発表(ショッピング・飲食店・宿泊施設に関する内容)		発表者は事前に準備しておくこと			
16	5分間の英語発表(ショッピング・飲食店・宿泊施設に関する内容)		発表者は事前に準備しておくこと			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。			
実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	コミュニケーション技法	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	小野彰太、遠藤晋		実務授業の有無	○			
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/アウトドア	対象学年	1	開講時期	後期		
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間		
授業概要、目的、授業の進め方	コミュニケーション能力は数年連続で、企業が採用時に求める能力ランキングでダントツ1位となっています。これからのインターンシップや就職活動を見据え、基本的なコミュニケーションスキルやビジネスマナーを習得することを目的に授業を行います。						
学習目標 (到達目標)	コミュニケーション検定を受検し合格する						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■コミュニケーション検定初級_公式ガイドブック&問題集 ■動画で学ぶコミュニケーション (eラーニング教材)						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	コミュニケーションのもつ力		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
2	聞く力		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
3	話す力①		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
4	話す力②		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
5	来客応対 / 電話応対		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
6	アポイントメント・訪問・挨拶 / 情報共有の重要性 / チーム・コミュニケーション		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
7	接客・営業 / クレーム対応		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
8	会議・取材・ヒアリング / 面接		■動画で学ぶ就活ナビ (eラーニング教材) を視聴 ■グループワーク				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率、受講態度、検定の可否によって総合的に評価する。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			以下のルールを守り、気持ちよく学びましょう。 ・授業の最初と最後はハッキリとした声で挨拶をすること ・ワークショップや話し合い、スピーチの機会があるときは、相手の話に頷いたり、自分の考えていることを発信するなど意思表示を心がけること (話し手への気遣い)				
実務経験教員の経歴	小野：生涯学習室担当として、複数の事業案件に関わる。また、日本能率協会マネジメントセンターとのコミュニケーション、リーダーシップ育成プログラムの共同開発メンバー。コーチング活動も行う。						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	就職実務	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	遠藤 晋	実務授業の有無		×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ キャンプビジネス/自然ガイド・自然環境保全/ 自然環境保全/山岳プロ/アウトドア	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	自己PR、履歴書の作成や模擬面接等、就職活動に必要な一連のプロセス、必要書類について学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	◆ライフデザインナビ2「ビジネス適性診断」Web ◆動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材) ◆その他資料(ワークシート)を適宜配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	就職活動の動機づけ (ビジネス適性診断、進路希望調査)	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ビジネス適性診断の実施 ■進路希望調査票に記入			
2	就職活動の準備とスタート	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ワークシート記入			
3	自分と職業を理解する(自己PR)①	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ワークシート記入			
4	自分と職業を理解する(自己PR)②	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ワークシート記入			
5	面接試験対策(自己PR、一般教養、学校生活)①	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ワークシート記入			
6	面接試験対策(自己PR、一般教養、学校生活)②	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ワークシート記入			
7	自分と職業を理解する・面接試験対策(志望動機)	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ワークシート記入			
8	情報収集・企業研究	■動画で学ぶ就活ナビ(eラーニング教材)を視聴 ■ワークシート記入			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		■毎回ノートPCを持参してください。			
実務経験教員の経歴	i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	フィールド観察		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	向滉/杉山隆		実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	1	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数		時間数	64時間	
授業概要、目的、授業の進め方	妙高に生息する多種多様な生き物を観察し、動植物の基本的な観察方法および基本的な知識を学ぶ。教室でのガイダンス後に野外で自然観察を行い、授業の終わりにFormsを使った小テストを行う形を基本とする。					
学習目標 (到達目標)	身近に観察できる様々な生物（植物、昆虫、哺乳類、鳥、両生・爬虫類、水生生物、キノコ等）について、自分の力で観察をできるようになる。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■新・山野の野鳥 ■新・水辺の野鳥 ■Field Guide 23 葉で見分ける樹木（増補版） ■ポケット図鑑 身近な草花300〈郊外〉 ■ポケット図鑑 身近な草花300〈街中〉					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	前期ガイダンス 樹木・草本観察		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
2	春の生物観察・森林セラピー		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
3	河川源流部でのガサガサ調査		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
4	山野の鳥・山菜		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
5	身近な草花の同定		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
6	樹木の同定（演習林）・山野の鳥		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
7	樹木の同定（演習林）		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
8	樹木テスト／まとめ試験		期末試験は2種類：①午前：樹木以外の動植物のテスト、②午後：樹木の50種同定（30種以上で合格。不合格者は再試験）			
9	後期ガイダンス 哺乳類の骨		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
10	草花の同定（演習林）		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
11	キノコ観察		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
12	危険生物（座学／高床山森林公園）		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
13	日本海の生態系		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
14	3年生による自然ガイド体験		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
15	冬の水鳥観察		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。			
16	3年生による自然ガイド体験		JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。試験は授業9～16の範囲から出題			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
期末テスト、出席日数、授業態度をもとに総合的に判断する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			動きやすい恰好、汚れてもよい恰好で参加してください。ため池や川に入ることもあります。スズメバチやマダニ等もいますので、極力肌は露出しないようにお願いします。			
実務経験教員の経歴	杉山：事務局として通算11年自然学校の運営に携わる。その傍らフリーランスとしてインタープリター、ファシリテーター、ガイドなど活動。					

科目名	アウトドアスポーツ		授業の方法	実技
担当教員	服部正秋/吉田美栄/小野彰太/遠藤晋 他		実務授業の有無	○
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/野外教育・アウトドアスポーツ/アウトドアプロインストラクター/山岳プロ/キャンプビジネス	対象学年	1年生	開講時期 通年
必修・選択	必修	単位数	時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。3年間の目標である登山ガイド及び自然ガイドの資格取得のために、野外活動の基礎であるナビゲーションスキル・ロープワークを習得することを目的とする。			
学習目標 (到達目標)	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。			
テキスト・教材・参考文献・その他資料	登山地図、25,000分の1地形図(国土地理院発行)、その他配布資料			
回数	授業項目、内容		日程	学習方法・準備学習・備考
1	A:クライミング(MP合同)、B:MTB		2024/4/15	各講師による指導
2	A:クライミング(MP合同)、B:MTB		2024/4/22	各講師による指導
3	登山		2024/5/6	各講師による指導
4	A:MTB、B:クライミング		2024/5/13	各講師による指導
5	A:MTB、B:クライミング		2024/6/3	各講師による指導
6	ナビゲーション実践(MP合同)		2024/6/10	各講師による指導
7	ノルディックウォーキング(MP合同)		2024/6/17	各講師による指導
8	SUP		2024/6/24	各講師による指導
9	カヤック		2024/7/11	各講師による指導
10	ロングトレイル入門(あまみトレイル)(MP合同)		2024/10/21	各講師による指導
11	ロングトレイル入門(信越トレイル)		2024/10/28	各講師による指導
12	ナビゲーション実践(MP合同)		2024/11/11	各講師による指導
13	トレイルランニング(MP合同)		2024/11/18	各講師による指導
14	ノルディックロゲイニング(飯山アーバン)		2024/11/25	各講師による指導
	休講		2024/12/2	各講師による指導
15	積雪期ルートナビゲーション(坪岳)スノーシュー		2025/1/6	各講師による指導
16	クロスカントリースキー		2025/2/3	各講師による指導
評価方法・成績評価基準			履修上の注意	
出席率と授業態度、技術習熟レベル等、総合的に評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			*授業内容によっては、体力のレベルに応じて、難易度が変化します。日頃から基礎体力の向上に努めるようにしてください。 *授業での持ち物、時間等の連絡はその都度事前に行いますので確認をお願いします。 *授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度異なりますのでよろしくをお願いします。 *天候やフィールド状況、他連携団体の状況により授業内容の変更や直前(前日や当日朝)の連絡となることがあります。	
実務経験教員の経歴	服部：各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴7年、外部講師：実務経験5年以上			

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	山岳/キャンプ・フィールド基礎知識	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×			
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/ 山岳プロ/クライミングインストラクター	対象学年	1	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間		
授業概要、目的、授業の進め方	<p>用具や読図・ナビゲーション技術、気象判断などについて学び、自立した野外活動が行なえるようになるための基礎を身につけることを目的とします。また、妙高周辺の山について知り、自身の活動の幅を広げていきます。</p>						
学習目標 (到達目標)	<p>野外での活動に関わる基本的な知識を身につける。</p>						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>パワーポイント資料使用、その他配布資料。</p>						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	ナビゲーション技術：地形図と読図の基本（地図記号、磁北線） 計画を立てる：行き先の選定と地図を活用したルート設定		パワーポイント資料を使用した学習および実習				
2	登山用具の知識：個人装備、レイヤリング等 各自必要装備の洗い出し（必要装備表作成）		パワーポイント資料と登山用具を使用した学習				
3	火器類の使用及びメンテナンス、米炊き実践 テントについて、テントの組み立て方		パワーポイント資料を使用した学習および実習（ガスリンストープ・テントの使用方法和米炊き体験）				
4	基本のロープワーク		パワーポイント資料を使用した学習および実習（ロープワーク）				
5	山での行動計画及び、計画書の作成、概念図 ローインパクトとルールとマナー		パワーポイント資料を使用した学習				
6	山の天気（天気について基本的な座学）		パワーポイント資料を使用した学習				
7	登山の傷病、危急時露営（ビバーク）と救助要請 危険な動植物（被害の避け方と応急処置）		パワーポイント資料を使用した学習および実習（ツエルト設営）				
8	テスト		授業内容全般から幅広く出題				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
<p>出席率と授業態度及び学期末テスト・実技テストにより評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。</p>			<p>登山だけでなく野外活動全般において、ベースになる知識・技術なので、確実に身につけ、屋外での授業や実習に不足なく取り組めるようにしてください。</p>				
実務経験教員の経歴	<p>登山ガイド歴5年・専門学校での講師歴4年</p>						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	環境教育ワークショップ		授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	小野 彰太		実務授業の有無		○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/キャンプ ジブ/自然環境保全	対象学年	1	開講時期	後期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	入学以後半年間の授業やインターンシップ、その他の経験を踏まえ、環境教育の現状や意義、関連分野、将来の方向性等について学生間での討論を行う。 環境教育に対する各自の考え方を共有するとともに、現時点における意見・考え方の学生間の共通性や相違性を認識する。また、仕事としての環境教育について、ニーズや将来の課題を探ることを目的とする。					
学習目標 (到達目標)	「環境教育とは何か」について、自分なりの考えを構築することを目標とする。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	授業ガイダンス、学生個別シート作成		配布の「学生個別シート」に記入後、発表。学生間で考え方や、価値観の共有を図る。			
2	ワークショップ概論、ワークショップ①(グループワーク)		「環境」を巡る諸問題とその解決に向けた取組(産官学、行政/民間、団体/個人etc..)について、グループワーク。まとめたものを発表。			
3	ワークショップ②:「環境教育」についての学生発表、討論		コメントシート(A5)に自分の意見をまとめて記入する。 【発表内容】①何のために(What)環境教育の目的(環境教育が目指すもの)とは? ②なぜ(Why)環境教育はなぜ必要なのか?重要性とは? ③いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、だれに(Whom)、どのように(How) *環境教育の具体的な活動例を紹介(活動以外に分野、業種、仕事、...などでもOK) *複数例紹介すること *発表者のこれまでの経験、活動も含めて検討すること ④環境教育に対する自分の考え(まとめ) *インターネット検索や書籍等で得た情報を引用した場合、その引用内容と自分の考えを分けて発表すること。 【発表形式等】・持ち時間は15~20分とします。・パワーポイントで準備すること(他のプレゼン資料を望む場合は、田辺まで要相談)・プロジェクターを使用。・板書も併用OK ・発表当日の12:00までに、発表に使うファイルをメール添付で田辺まで送ること 送付先メールアドレス(田辺) tanabe.shinichi@nsg.gr.jp			
4	ワークショップ③:「環境教育」についての学生発表、討論					
5	ワークショップ④:「環境教育」についての学生発表、討論					
6	ワークショップ⑤:「環境教育」についての学生発表、討論 冬休み課題:「自分」を書く(原稿スタイル、内容、画像、レイアウト等)の説明		パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聞き手の学生は「コメントシート(A5)に自分の意見をまとめて記入する。			
7	冬休み課題の発表、意見交換		【課題】●自分の考え方・価値観を書く(→リレートークに登場する方々の文章を参考に)●本文(800~1,200字)●プロフィール(200~300字)●画像(1~2枚)【自分が写っている画像+a】●タイトル(→配布資料「リレートーク」を参考に)●A4(縦書き 段組み4段)●おすすめの○○ 映画とか音楽とか書籍とか ●フォント、文字サイズは自由 ●Wordで作成すること			
8	冬休み課題の発表、意見交換					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
出席率、授業態度、主体性から総合的に評価します。特に討論への積極的な姿勢を重視します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			「環境教育」について、各自パワーポイントにまとめてきた内容を発表してもらいます。聴講側となった学生は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめて記入し、グループ内で発表および討論してもらいます。			
実務経験教員の経歴	自然系博物館の環境教育事業に2年間従事。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	上級救命講習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	外部講師/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動において自主救護能力の向上を図ることを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	応急手当のやり方や流れを理解し、実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講習用テキスト配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	<ul style="list-style-type: none"> ■講師紹介挨拶 重要性・必要性(DVD) ■成人に対する心肺蘇生法(1人法実技) ■AED説明(DVD) ■CPR+AED(2人1組にて実施) ■効果測定(筆記試験) ■解説 ■効果測定(実技試験) ■各応急手当実技(止血・骨折/小児CPR/乳児CPR) ■各応急手当実技(外傷手当/搬送法・保温・熱中症/体位管理・異物除去) ■まとめ(質疑応答・事務連絡等)"☒ 		DVD視聴、口頭・実演による講習後、人工呼吸法・心肺蘇生法・AEDの使用法・止血法等を実践。 筆記試験と実技試験を行うことにより習熟度を確認する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			修了証を発行するため最後に確認テストが行われます。		
実務経験教員の経歴	外部講師：頸城消防署員				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	野外教育		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	小野 彰太		実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ／自然ガイド・環境保全／自然環境保全／キャンプビジネス	対象学年	1	開講時期	後期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間	
授業概要、目的、授業の進め方	野外教育指導者として必要な「野外教育」や「野外活動」の理論や基本的知識について、実例等を踏まえながら学習する。また、指導実践に向けて、キャンプインストラクターの役割や指導法、安全管理等について学習する。本授業は、日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。					
学習目標 (到達目標)	公益社団法人日本キャンプ協会キャンプインストラクター 合格					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」 その他、適宜資料配布					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、野外教育とは、自然体験の意義、生活技術			講義、グループワーク		
2	キャンプの特性、キャンプの対象			講義、グループワーク		
3	キャンプの指導			講義、グループワーク		
4	キャンプの安全、さまざまなアクティビティ			講義、グループワーク		
5						
6						
7						
8						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率、授業姿勢、グループ討議、筆記試験から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				自然体験活動の指導者として、野外教育という分野は関連性の深い内容となります。自らの専門性を高める為、将来的に多くの方に自然体験を提供する為、積極的に受講して下さい。 筆記試験合格者でキャンプ実習の受講生は、任意で日本キャンプ協会キャンプインストラクター資格の取得が可能です。		
実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。日本キャンプ協会キャンプディレクター2級。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	生態学		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	八木 寛之		実務授業の有無	×		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/キャンピングビジネス	対象学年	1	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>自然とは？生態系とは？国内外のテキストや事例を使って、生態学の基礎知識を習得しながら、私たちと自然環境との関係のあり方を探ります。</p> <p>また、生物多様性保全の推進のために必須である外来種対策および自然再生について、その基本的な考え方を学びます。</p>					
学習目標 (到達目標)	生物と環境に関する基礎科目である生態学の一般的なキーワードについて覚え、その内容を理解する。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使わないが、授業中に参考図書を紹介する。					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	[宇宙船地球号 ～私と自然環境～] 自分にとって自然とは？生態学の学習に先立ち、自分と自然環境との関わりを見つめ直す。		スライドを使用した学習			
2	[生態学の基礎] 生態学とは？種とは？生物間相互作用とは？		スライドを使用した学習			
3	[生物多様性について] 生物多様性とは？なぜ守る必要があるのか？		スライドを使用した学習			
4	[生物間相互作用と適応放散] 生物×他の生物×環境		スライドを使用した学習			
5	[生物の地理分布と個体群動態] 絶滅の渦、環境容量、成長曲線 等		スライドを使用した学習			
6	[ウェットランドの生態系] River Ecosystem-河川生態系の基礎知識- 等		スライドを使用した学習			
7	[貴重種と外来種 ～その考え方と実際～] 貴重種の基準、外来種の基準 等		スライドを使用した学習			
8	[まとめ・試験]		スライドを使用した学習(復習)、筆記試験			
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
出席率、授業態度、レポートおよび最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			自然界には様々な環境があり、そこには色々な生物がいて、相互に影響しあいながら暮らしています。その興味深い関わりにふれてみましょう。その学習のなかで、自分の自然への想いを見つめ直してみましょう。			
実務経験教員の経歴	環境コンサルタント会社社員等として13年、その後独立起業し14年、保全生態に関する業務(自然再生事業等)に従事している。樹木医、自然再生士、林業作業士、測量士。本校での講義は、12年目となる。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	多様性生物学		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	八木 寛之		実務授業の有無	×		
対象学科	自然ガイド・環境保全／自然環境保全／山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間	
授業概要、目的、授業の進め方	「生物多様性」・・・それは国際条約であり、我が国の法律及び国家戦略(政策)であり、そして各地の自治体でも基本計画を策定しているモノである。今や一般的によく耳にする自然環境のキーワードであるが、何を意味しているのだろうか？本講義は、自然環境を仕事のフィールドとしていく者として、「生物多様性」が意味するもの、その成り立ち、なぜ守っていかねばならないかを理解・意識できるようになることを目標に進めていきます。					
学習目標 (到達目標)	生物多様性という言葉が指す意味と保全上の意義について考え、説明できるようになる。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使わないが、授業中に参考図書を紹介する。					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	生物多様性とは何か？		スライドを使用した学習			
2	分類と進化		スライドを使用した学習			
3	生命の歴史と種分化		スライドを使用した学習			
4	収斂進化と適応放散		スライドを使用した学習			
5	生と死～多様な生活史		スライドを使用した学習			
6	生物間相互作用と個体群		スライドを使用した学習			
7	生物多様性再考		スライドを使用した学習			
8	まとめ・試験		スライドを使用した学習(復習)、筆記試験			
9	保全遺伝学について		スライドを使用した学習			
10	遺伝的多様性について		スライドを使用した学習			
11	多様性の様々な要因について		スライドを使用した学習			
12	集団の進化と分断化		スライドを使用した学習			
13	野生集団の管理について		スライドを使用した学習			
14	絶滅の考察		スライドを使用した学習			
15	多様性生物学のケーススタディ		スライドを使用した学習			
16	まとめ・試験		スライドを使用した学習(復習)、筆記試験			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
出席率、授業態度、レポートおよび最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			どんな生物がこの地球で生きているのか？なぜ多様な生物が生まれてきたのか？生物学・生態学をベースに、様々な具体事例から学んでいきましょう。			
実務経験教員の経歴	環境コンサルタント会社社員等として13年、その後独立起業し14年、保全生態に関する業務(自然再生事業等)に従事している。樹木医、自然再生士、林業作業士、測量士。本校での講義は、12年目となる。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	進化生物学		授業形態	遠隔授業	授業の方法	講義
担当教員	鈴木誠治		実務授業の有無	×		
対象学科	自然ガイド・環境保全／自然環境保全	対象学年	1	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>生物の進化は現在の自然環境をかたちづくる大本の考え方である。また、生物多様性は自然観察のキーワードの一つだがそのもととなる考えでもある。本講義では動物を材料に、進化の考え方と多様性の作られ方を学ぶ。</p> <p>なお、本講義はMS Teamsによる遠隔授業のみで実施する。</p>					
学習目標 (到達目標)	身近な自然と進化を関連付けて説明できるようになる					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特に使用しない。					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	進化とは何か		スライドを使用した学習			
2	種と種分化		スライドを使用した学習			
3	性と交尾と交尾器の進化		スライドを使用した学習			
4	種間関係の進化ーニッチと競争		スライドを使用した学習			
5	種間関係の進化ー食う食われる		スライドを使用した学習			
6	種間関係の進化ー共進化		スライドを使用した学習			
7	系統と地理		スライドを使用した学習			
8	昆虫の進化		スライドを使用した学習			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
<p>出席率、授業態度、レポートおよび最終試験から総合的に評価する。</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>			特になし			
実務経験教員の経歴	昆虫の行動形態学に関する研究に24年従事している。博士(理学)、1級ビオトープ施工管理士、環境カウンセラー(市民部門)。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	森林生態環境		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ ビジネス/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科	対象学年	1	開講時期	後期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間	
授業概要、目的、授業の進め方	森林の減少や劣化は、地球環境問題の1つとなっています。それほど悪化してしまった森林の状況が今後も続いた場合何が起るのか？私たちの日々の暮らしに問題がでてくるのか？この授業では、森林の様々な働きやその働きによって私たちが受けるたくさんの恩恵を学びます。また、森林の保全に向けた世界、日本、地域レベルの取り組み事例を紹介し、プロとして自然と関わる幅広い視点を養います。					
学習目標 (到達目標)	森林生態系の仕組みや働きについて、説明できる。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス：森林を学ぶとは？（ブナ林を例に）		パワーポイント資料を使用。			
2	森林生態系（物質循環と食物連鎖について）		パワーポイント資料を使用。			
3	森林の構造（発達段階、階層構造とパッチ構造）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。			
4	森林の保水機能（土壌の層構造、三相組成、孔隙組成について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。			
5	森林の動態（森林の攪乱、遷移、更新について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。			
6	樹木の構造と機能（材、葉、シュート、花、種子について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。			
7	樹木の生活史戦略（種子、実生、繁殖について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。			
8	期末テスト		授業内容全般から幅広く出題。			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
期末試験点数、出席率、学習意欲で総合的に評価 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			この科目は森林生態学の基礎を学びます。授業の最初に前回授業の内容に関する小テスト（30点満点、18点以上合格）を実施します。復習をしっかりとるように。期末試験は授業内容全般から幅広く出題されます。出席率80%未満または飢渴試験60点未満は追試となります。			
実務経験教員の経歴	森林生態学の研究者として、6年間研究職および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	リスクマネジメント	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	遠藤晋		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ/自然ガイド・環境保全 /野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビ ジネス/自然環境保全	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	<p>野外での活動時に生じる様々な「リスク」について、把握、分析し適切にコントロールするために必要なスキルを身に付けることを目的とする。</p> <p>本授業では、リスクに対する個別の対処法（搬送法、救急法等）の習得ではなく、状況把握や状況判断を適切に行い、事故を予防するための一連のプロセスについて学ぶ。また、自然界での危険な動植物等への知見を広め、その対策や対処法等を学ぶ</p>				
学習目標 (到達目標)	自分自身と他者のリスクの「発見」「把握」「分析」「対処」の違いを理解すること				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	外部講師の用意した資料を使用				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	【1日目】 「リスクの発見・把握および評価・分析」	※天候等によりスケジュールを変更することがあります ※毎日野外で活動できる服装で参加してください。 ※4日目については昼食を持参してください *筆記用具			
2	教室での講義、学校周辺のフィールド（清流公園等）でのイ				
3	ニシアティブゲーム等の実技を通してリスクのアセスメント について学びます。				
4	【2日目】				
5	「危険生物対策について」講義				
6	【3日目】				
7	「リスクの発見・把握および評価・分析」 1日目と同様の内容を実施します。				
8	「リスクのコントロール」				
9	教室での講義、学校周辺のフィールドでのイニシアティブ ゲーム等の実技を通してリスクのコントロールについて学び ます。				
10	【4日目】				
11	沢登り（予定）の実技を通してリスクのコントロールについ て学びます。				
12	授業終了予定				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点 以下)とする。					
実務経験教員の経歴	体験学習講師歴5年以上、当授業実務経験3年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	基礎体力トレーニング	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ ビジネス/自然ガイド・環境保全 /自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニング法の実際を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、ランニングコースの確認(ランニング) トンネル8km 5分歩き5分走り(60%)		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
2	ウォーク&ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度60%以下 速歩:70%以上ラン) トンネル8km		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
3	ランニングふれバコース ウォーク&ラン 姿勢の確認(姿勢作り、 ポイント確認) ふれバ60分		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
4	ウォーク&ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度60%以下: 70%以上) NHMコース		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
5	ランニングサーキット(筋持久力+全身持久力 1度で2度美味しい トレーニング)		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
6	ウォーク&ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度60%以下: 70%以上) NHMコース		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
7	下半身サーキットJP系(下半身に特化した筋力トレーニングをしよう) ふれバ20分×2セット		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
8	ジョグ&ラン (運動強度60%以下:70%以上) ふれバ上り 100mダッシュ		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
9	ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度70%以下) MURA10kmコース		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
10	ラン まだらお毛無山&希望湖 トレイルラン		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
11	ラン 信越五岳コース アパ~学校(約8km) トレイルラン		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
12	ラン 信越五岳コース 蔵々~アパ(約5km) 上りトレイルラン		(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
13	SAQトレーニング&ラン ふれバ(体育館)		ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
14	ラン&サーキットトレーニング ふれバ(体育館)		ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
15	室内での筋力トレーニング(JWSC)		ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
16	室内での筋力トレーニング(JWSC)		ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。		
実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	キャンプ実習		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	小野 彰太、吉田 理史		実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/アウトドア	対象学年	1	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	2泊3日のキャンプ活動を通して、以下の目標および技術習得を達成しi-nacにおける野外活動の基礎を構築することを目的とする。なお、本実習は日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。					
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・バックパッキングに必要な技術の習得 ・コミュニケーション、リーダーシップの重要性を認識する ・現時点での自分の力量・課題を明確にする 					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	山と溪谷社「ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書②トレッキング縦走登山」					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、アイスブレイク、目標設定、装備・食材準備、登山計画作成			講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備）		
2	実習地移動、キャンプ場オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、ナビゲーション講習（整地、磁北線、山座同定、ストレートハイク）			講義、実地演習、振り返り・グループワーク		
3	野外炊飯②、バックパッキングオリエンテーション（キャンプ場～スキー場周辺～戸隠奥社周辺）、野外炊飯③、キャンプファイヤー			実地演習、グループワーク、振り返り		
4	野外炊飯④、撤収（テント・タープ、食器、清掃）、実習総括			実地演習、ふりかえり、レポート作成		
5						
6						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。		
実務経験教員の経歴	小野：民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。 吉田：民間で、12年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	雪上キャンプ実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	小野彰太/外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドア/キャンプビジネス 自然ガイド・環境保全/自然環境保全学科/山岳 プロ/アウトドアプロインストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	雪上での諸活動（スノーシューハイク、キャンプ生活等）を通して、冬期活動の基本的なノウハウや安全管理について学ぶ。 ■活動内容 ①雪上で2泊のキャンプ実践（ベースキャンプの設営および雪上での野外炊飯などを行う） ②スノーシューでの行動、安全・確実なルートファインディングを行う。③クインジー（雪洞）を作って泊まる実践				
学習目標 (到達目標)	①雪上でのテントをつかった幕営を、安全に行うことができる ②安全かつ居住性のあるクインジー（雪洞）を設営することができる ③地形図を見ながら、尾根と沢を区別し、確実なルートファインディングができる ④雪上キャンプでの炊事を、仲間と協力しながら効率良く行える				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	2万5千地図を配布。その他配布資料。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	■講義（306室）■装備チェック■雪洞づくり講習（4X コースor自然の家）■共同装備等振り分け・食料買い出し	班別にグループワーク（雪上活動のリスクについてディス カッション、装備チェック、装備振り分け等）			
2	■inac集合、出発■ベースキャンプ 着&テン場設営開始■夕食準 備 ■夕食&ミーティング	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員 は、各班に1名）。			
3	■起床・朝食準備■朝食■テン場発■宿泊地点着 雪洞づくり ■ 夕食準備■ 夕食&ミーティング	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員 は、各班に1名）。			
4	■起床・朝食準備■朝食■テン場発■inac着 後片付け■ふりかえ り■解散	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員 は、各班に1名）。学校に戻ってからの振り返りは、全員そろって から開始します。			
5					
6					
7					
8					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率、授業姿勢、実習目標4点の自己評価結果、事後レポート等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		■事後レポート課題：実習目標4項目それぞれについて点数（各項目25点満点）をつけ考察する。実習での反省をふまえて、自分自身に足りなかったことや今後身につけるべきことなどを考えながら、実習の感想も含めたレポートを作成すること。Wordを使用、A4用紙2ページ以上（文字数は1,600文字以上）			
実務経験教員の経歴	主担当（小野）：野外教育指導者歴9年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	森林管理実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	余頃 友康／伊藤雅文		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	キャンプを始めとしてアウトドアシーンではよくチェーンソーを扱う。本実習では、チェーンソーの基本的な使い方を実践を通して学んでいく。併せて、安全に刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈り払いを行えるようにするため、「林業・木材製造業労働災害防止協会」が発行する教科書に即して、学科および実技の講習を行う。				
学習目標 (到達目標)	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、丸太の玉切りや草木の刈り払いを行えるようになること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	安全な刈払機作業のポイント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	チェーンソー基本講習①		実物を使った講習を行う。		
2	チェーンソー基本講習②		実物を使った講習を行う。		
3	チェーンソー基本講習③		実物を使った講習を行う。		
4	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育②		教科書に即して学科および実技の講習を行う。		
5					
6					
7					
8					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			森林を管理するためには、チェーンソーや刈払機の使用は不可欠です。 これらの器具の適切な利用方法、作業時の安全確保について理解することは非常に大切です。		
実務経験教員の経歴	余頃：林業の現場に24年間従事。伊藤：林業の現場に従事。				

科目名	雪上スポーツ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部正秋/小野彰太/外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドア/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科/アウトドアプロインストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキーの技術の向上、知識の獲得を通じて、積雪期における野外活動への理解を深めることを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	アルペン：各自の技術レベルに応じて設定。 ①ブルクホーゲンでスキー場の初級者コースを滑走できる。 ②バルタレンでスキー場の中級者コースを滑走できる。 ③スキー場の上級者コースで安定した滑走ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	事前に「受講調査票」を配布。その他資料を適宜配布。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：杉ノ原スキー場 ■活動班：習得レベル別（下記4段階）に分けられた班ごとに活動 ア. はじめて。 イ. ブルクホーゲンでスキー場の初級者コースを滑走できる。 ウ. バルタレンでスキー場の中級者コースを滑走できる。 エ. スキー場の上級者コースで安定した滑走ができる。 ■装備：□スキー □ブーツ □スキーポール □雪上活動用ウェア（厚手）☑帽子（ニット）☑ □グローブ □ゴーグル □昼食 □日焼け止め等その他必要なもの ■チケット手配に関して *スキー場での3日間は、杉ノ原スキー場のシーズンパスを持っている学生（もしくはスーパーシーズン券等を持っていて使用できる学生）はそれを使ってください。 *また19歳の学生は杉ノ原スキー場が平日リフト無料になります。（平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれ） ※対象者は、19歳になる前でも利用可能登録がありますので、該当する学生で利用したい学生は、実習前までに必ず登録しておいてください。 https://majibu.jp/yukimaji19/pc/about/ *シーズンパスを持っていない学生、または20歳リフト券無料に該当しない学生にしましては、1日券×3日分を当日、自分でスキー場で購入してもらいます。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） □サングラス（ゴーグルだとくもりやすい） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） □日焼け止め □昼食 □飲み物等 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） □サングラス（ゴーグルだとくもりやすい） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） □日焼け止め □昼食 □飲み物等 			
4	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（9:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■クロスカントリーコースにて講習 ■i-nacにて解散 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） □サングラス（ゴーグルだとくもりやすい） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） □日焼け止め □昼食 □飲み物等 			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率、授業姿勢、実習習得レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		<ul style="list-style-type: none"> ■受講生は別紙、「受講調査票」を提出してください。 ■アルペンスキーではゲレンデでのスキー基本的技術を学ぶので、可能な限りファットスキー、テレマーク以外のスキーを持ってきてください。 ■装備の準備について不安がある学生は早めに相談してください。安全管理上、装備が不十分の学生の受講は認めません。 ■特に初心者、ヘルメットの着用を強く推奨します。 ■スキー、レンタルは手配しません。必要な学生は内田スポーツへの相談をお勧めします（年間レンタルもかなり安くしてもらっています） 			
実務経験教員の経歴	<ul style="list-style-type: none"> ■服部正明：クロスカントリースキー競技歴30年、国体出場9回 ■小野彰太：スキー歴10年、指導歴3年以上 ■外部講師：スキースクール講師 				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	生物分類	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	向況		実務授業の有無	×			
対象学科	自然ガイド・環境保全、自然環境保全	対象学年	1	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間		
授業概要、目的、授業の進め方	生物分類技能は自然解説や野生生物調査を实践する上で欠かせない基本技能である。本授業では、生物分類学の基礎を学び基本種の見分け方を習得する。それにより自然環境研究センター「生物分類技能検定3級」の合格を目指す。また、3級合格者には、その上位のプロ資格である2級に挑戦して頂きたい。						
学習目標 (到達目標)	自然環境研究センター 生物分類技能検定3級 合格						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	生物分類技能検定3級・4級試験問題集、生物分類技能検定3級・4級解説集。						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	生物分類技能検定について、生物地理学、生物の系統、生物基礎		座学				
2	哺乳類の分類		座学				
3	鳥類の分類		座学				
4	両生類、爬虫類、魚類の分類		座学				
5	昆虫の分類		座学				
6	植物の分類		座学				
7	植物の分類		座学				
8	その他の分類群		座学				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率、授業態度、主体性から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			8-9月に全国各地で実施される生物分類技能検定3級試験(CBT)を全員受験します。生物分類学の基礎は本授業で学べますが、個々の生物群への分類技能は自主学習と実践がなければまず伸びません。日々の研鑽をお勧めします。				
実務経験教員の経歴	大学院にて生態学に関する研究を4年間遂行、神奈川県NPO法人における水田ビオトープの管理に3年参画。						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	動物行動学	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	鈴木誠治		実務授業の有無	×			
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期		
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間		
授業概要、目的、授業の進め方	動物の行動が自然淘汰のメカニズムを通じて進化してきた事実を理解し、生きものに見られる不思議な行動も進化という観点から考えるとよく理解できることを伝えます。また、動物の行動だけでなく、生きものの生態・形態等も進化のプロセスを経て形づくられてきたことを理解することで、自然を見る目を養うことも目的としています。						
学習目標 (到達目標)	動物行動学の観点から、生物を考えることができるようになる。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使いませんが、必要な資料は授業中にプリントとして配布します。						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	動物行動学序論		スライド・板書を使用した学習				
2	動物行動の謎		スライド・板書を使用した学習				
3	自然淘汰による進化のメカニズム		スライド・板書を使用した学習				
4	利他行動の謎		スライド・板書を使用した学習				
5	古典的適応度と包括適応度		スライド・板書を使用した学習				
6	真社会性昆虫（ハチ・アリ）の謎		スライド・板書を使用した学習				
7	性選択		スライド・板書を使用した学習				
8	性選択の実例と理論・まとめ		スライド・板書を使用した学習。				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率、授業態度、最終試験から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行われません。				
実務経験教員の経歴	昆虫の行動形態学に関する研究に24年従事している。博士（理学）、1級ビオトープ施工管理士、環境カウンセラー（市民部門）。						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	地球環境科学		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/ 自然環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	地球や地域の環境をとりまく諸問題と、その解決に向けた社会、経済的な取組を幅広く学ぶ。授業では、毎回学生が決定したテーマについて発表し、その後、発表した内容やテーマについてのディベートを行う形式とし、自ら考え、他者に意見を述べるプロセスを通して「伝える」スキルの向上を目指す。					
学習目標 (到達目標)	①地球環境や地域の問題を当事者の視点から身近な問題として理解できる。②豊かな自然やその恵みにあずかっている私たちの暮らしが、今後もよりよい状態で続いていくために何をすべきなのか、何ができるのかについて自ら考えることができる。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	パワーポイント資料を学生が作成し発表。					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	授業ガイダンス、環境問題グループワーク、発表テーマの決定（各学生）		地球環境問題について、各自まとめ、グループディスカッション後、発表する。			
2	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート①		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。			
3	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート②		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。			
4	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート③		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。			
5	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート④		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。			
6	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑤		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。			
7	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑥		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。			
8	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑦		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			地球環境問題の中から、各自テーマを決定し、パワーポイントにまとめた内容を発表してもらいます。聴講側となった学生は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入し、グループ内で発表および討論してもらいます。			
実務経験教員の経歴	北海道大学大学院にて博士号（地球環境科学）を取得。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	インタープリテーション	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	余頃友康		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	インタープリテーションに必要な知識・技術を習得することを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	自身の力でインタープリテーションを企画・実践できるようになること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インタープリテーションとは インタープリテーションのフィールドおよびテーマの検討①		インタープリテーションというものについて座学で指導をする。		
2	インタープリテーションの企画書の要素、文献調査の方法 インタープリテーションのフィールドおよびテーマの検討②		インターネットを活用して文献調査の方法などを指導する。		
3	インタープリターに必要な基礎的な技術、能力 インタープリテーションのフィールドおよびテーマの決定		インタープリターにはどのような能力が必要か、類似する資格と比較しながら検討する。		
4	インタープリテーションの構想の発表 実施計画書・資料・道具づくり①		教室において、どのようなインタープリテーションを実施したいか構想を発表する。		
5	インタープリテーションの教室での予行演習 実施計画書・資料・道具づくり②		教室において、本番さながらにインタープリテーションの予行演習する。		
6	フィールドでのインタープリテーションの実施①		フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。		
7	フィールドでのインタープリテーションの実施②		フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。		
8	フィールドでのインタープリテーションの実施③		フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。		
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			初めてのフィールドにおいても、インタープリテーションを実施するための文献調査、フィールド調査、コース設定などを自分で行える技能が身に付きます。 この技能は様々なフィールドや状況で応用でき役立ちます。		
実務経験教員の経歴	長野県等における林業の現場に24年間従事。現在、森林整備や伐採に関する事業や森林環境についての教育を展開。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	水辺の環境教育学	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	向況		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	水辺ピオトープは自然体験・環境教育の場として多用されており、その活用方法、管理方法の習得は自然ガイドを志すものには重要である。一方で、水辺ピオトープには、アメリカザリガニを始めとする侵略的外来種がしばしば定着し、ピオトープの生物多様性の劣化を招いており、管理上の課題となっている。本実習では、自然体験施設の水辺ピオトープにおいて、アメリカザリガニの調査と捕獲管理を実践し、環境教育の場としてのピオトープの管理維持方法を実践的に学ぶ。また、環境教育の視野から外来種をどう扱うかについても議論を行う。				
学習目標 (到達目標)	水辺ピオトープの管理方法を理解し考案できるようになる。 水辺ピオトープを用いた環境教育を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	必要資料は配布する。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	移動、アメリカザリガニの捕獲調査、個体測定等	フィールド（「森の学校」キョロロ）			
2	アメリカザリガニの捕獲調査、個体測定等、 水辺ピオトープの維持管理に関わる演習	フィールド（「森の学校」キョロロ）			
3	環境教育の視座からアメリカザリガニとピオトープの在り方を考える	フィールド（「森の学校」キョロロ）			
4					
5					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		寒い中での水辺作業も多いため、防寒と汚れ対策はしっかりお願いいたします。本実習は宿泊型となります。			
実務経験教員の経歴	大学院にて都市生態学に関する研究を6年間遂行、神奈川県でのNPO法人における水田ピオトープの管理に3年参加。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ネイチャーゲーム	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	ネイチャーゲームリーダーは、ネイチャーゲームをはじめとするシェアリングネイチャー活動を通して、身近な子どもや大人に自然を案内することで心動かす体験を伝える人であり、また、自らも自然とのふれあいを楽しめる人のことです（シェアリングネイチャー協会HPより）。本実習では、実技・実践を通し、ネイチャーゲームへの理解を深め、ネイチャーゲームリーダー等の資格取得を目指します。				
学習目標 (到達目標)	シェアリングネイチャー協会ネイチャーゲームリーダー、自然体験活動指導者（NEALリーダー） 合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	シェアリングネイチャー協会より提供される養成講座用のテキストを使用する。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	1日目 ・講座オリエンテーション ・ネイチャーゲーム体験 ・講座（自然案内人とは） 2日目 ・ネイチャーゲーム体験 ・ネイチャーゲーム実践法 ・安全対策実習 ・KYT実習 ・講義（安全対策） 3日目 ・ネイチャーゲーム体験 ・フィールドKYT ・指導実習、グループ実習 ・講義（指導員制度、自然体験活動リーダーとは、シェアリングネイチャーを読む、自然の喜びを感じよう他） ・筆記試験 ・結果発表、登録手続き	フィールド演習、スライド・板書による講義			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
受講態度、出席日数、筆記試験の結果から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		実習の最終日にネイチャーゲームリーダー資格の筆記試験があります。			
実務経験教員の経歴	外部講師：日本シェアリングネイチャー協会ネイチャーゲームインストラクター				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	自然公園実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	向況		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	3	開講時期	後期（集中）
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習では新潟県内の博物館や県立公園などの社会教育施設を巡りその展示やバックヤードを視察し、一部の施設では学芸員やインタープリターにより施設の機能や方針について解説頂く。それにより自然公園や博物館の社会的役割と課題を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	① 自然公園および博物館の社会的役割について理解を深める。② 様々な社会教育施設を観ることで、情報の伝わりやすい展示とは何かを理解し、その目を磨く。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	訪問先の自然公園・博物館等のHP、パンフレット等。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	地質系博物館の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。			
2	自然史系・歴史民俗系博物館の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。			
3	水族系博物館の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。			
4	ラムサール条約湿地等の自然公園の視察	施設に移動し水鳥等を観察しながら視察の機能を考察する。			
5	ビジターセンター、植物園の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率、授業態度、レポートから総合的に評価します。施設視察中には施設ごとに評価シートを作成して頂きます。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		実習参加者は社会教育者と客の2者の立場で視察を行い、展示の教育効果や課題を批評的かつ生産的に考察することを心掛けて頂きたい。また新潟市方面の施設を巡る際には宿泊となる予定である。持ち物等は後日連絡する。			
実務経験教員の経歴	大学院にて都市生態学に関する研究を6年間遂行、神奈川県でのNPO法人における水田ビオトープの管理に3年参画。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ウィルダネスファーストエイド	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	非常勤講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアガイド/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科/アウトドアプロインストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	50時間
授業概要、目的、授業の進め方	緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のかかる状況での野外救急法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブルや、野外における環境やストレスからくる怪我や体調不良に対処する応急知識・技術を習得する。なお、本実習はウィルダネス メディカル アソシエイツ ジャパン(WMAJ)が認定するWAFAdアドバンスレベルの認定講習会を兼ねて実施される。				
学習目標 (到達目標)	Wilderness Medical Associates International (WMAI) 認定 Wilderness Advanced First Aid(WAFA)およびILCOR準拠Adult CPR 合格				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	WARFA (テキスト)、オレンジフィールドガイド(撥水加工)、クラスノート、SOAPノート(処置記録ノート)、教材はすべて日本語化済み				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、医療と法、一般原則(生理学と病理学)、一般原則(ウィルダネス医療と救助医療)		講義、演習、復習(課題)		
2	傷病者評価システム(PAS)、傷病者の保護、呼吸器系、循環器系、神経系、一次救命処置(BLS)、脊椎損傷		講義、演習、ロールプレイ、復習(課題)		
3	筋骨格系、創と熱傷、体温調節、アレルギーとアナフィラキシー、毒物/毒物注入/疾病媒介動物		講義、演習、ロールプレイ、復習(課題)		
4	水に関する損傷、落雷による損傷、野外での病気		講義、演習、ロールプレイ		
5	筆記テスト、搬送方法、シナリオトレーニング、総括、結果発表		講義、演習、ロールプレイ		
6					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業姿勢、筆記試験(マークシート)、実地演習の内容、講習認定の可否など総合的に評価。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			講習は40時間の履修が必須となります。実習中、遅刻、早退、欠席には留意し自己管理を行うこと。 実習ガイダンスで告知される事前学習、準備物を全て確認し取り組むこと。知識が不足している場合、実習に参加できない可能性もあります。また、実習中課された復習課題にも積極的に取り組むこと。課題対応を含めた50時間履修となります。		
実務経験教員の経歴	WMAIインストラクターは、志願者の前提条件として①医療従事者または豊富な現場救護経験、②ガイドレベルのアウトドアスキルやアウトドア経験、③教育者としての経験が求められています。 加えて1年間の専門的なトレーニングを積んだのち、7日間のWALS医師レベルコースの受講を含むインストラクタートレーニングコースを修了し、WMAIカリキュラムディレクターのDr.David Johnsonから直接審査・認定を受けたプロフェッショナルメンバーです。				

科目名	バックカントリー実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。				
学習目標 (到達目標)	①積雪期におけるルートナビゲーション及びプランニングを実施し、自然ガイドステージIIの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。 ・プランニング・登山計画書の作成・気象判断・行動判断・ナビゲーション ②積雪期のバックカントリーエリアで安全に活動するための基礎的なスキルを習得する。 ・雪崩地形の認識、積雪の観察と積雪安定性評価の基礎 ・グループマネジメント・セルフレスキュー等について学ぶ ③バックカントリーツアーを体験する ・妙高周辺のフィールドにおける学生主導のバックカントリーツアーを実施する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	東京新聞 増強改訂雪崩リスク軽減の手引き NPO法人日本雪崩ネットワークウェブサイト http://nadare.jp/				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	(AM) 座学 ・バックカントリー滑走のための基礎知識 ・セルフレスキュー (ビーコン) (PM) セルフレスキュー実践		パワーポイント資料を使用した学習および実習(フィールドでのビーコン検索)		
2	(AM) 座学 ・雪崩地形での行動判断 ・積雪安定性の評価 等 (PM) 積雪安定性評価・プランニング		パワーポイント資料を使用した学習および翌日からのツアーのプランニング		
3	バックカントリーツアー 坪岳 (ナビゲーション)		雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。		
4	バックカントリーツアー シャルマン火打スキー場～放山		雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			装備 <input type="checkbox"/> スキー、スノーボード <input type="checkbox"/> 登行用の装備 (ツアー用ビンディング・シール・スノーシュー・かんじき等) <input type="checkbox"/> 上記以外でバックカントリーツアー・雪上でのキャンプに必要な個人装備 (ザック・ウェア・手袋 (インナー・アウター) ・ゴーグル・サングラス・ビーコン・プローブ・ショベル等) ※ スキーでの参加者はできるだけシール登行ができるよう装備を整えてください。スノーボードの登行はスノーシューを想定しています。装備について不安な点は担当教員まで相談してください。		
実務経験教員の経歴	中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション (1997～2006年)、インフィールド代表 (個人事業、2006年～現在) ガイド歴20年以上				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	保全生態学		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	八木 寛之		実務授業の有無	×		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全		対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修		単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	保全生態学は、豊かな生態系を守るために誕生しました。自然環境や野生生物を愛し、守っていかうとする私たちに必須の学問です。生物多様性の考え方から、外来種対策や自然再生の最前線の動き、具体的な方策まで学び、自然を守るプロとしての知識・意識を身につけることを目的とします。					
学習目標 (到達目標)	「保全生態学」とは何か？を理解し、その基本を説明できるようになる。また、自然環境の保全に向け必要なアクションを発想し、提案できるようになる。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考書や図鑑などの教材については授業の中で適宜紹介する。					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	[保全生態学とは～自然を守るため私たちがすべきこと～] 生物多様性の考え方			スライドを使用した学習		
2	[外来種対策および自然再生事業の実際] 外来生物法概説、自然再生の考え方、各事業の詳細			スライドを使用した学習		
3	[エコロジカル・ネットワーク1] 地先の保全からマクロ視点へ			スライドを使用した学習		
4	[エコロジカル・ネットワーク2] 様々な環境保全事例等			スライドを使用した学習		
5	[演習：私たちの保全生態アクションプラン1] まずは何が出来るだろう？班毎にディスカッション。			グループワークによるディスカッション、資料作成		
6	[演習：私たちの保全生態アクションプラン2] 班の考えをまとめ～発表に向けた準備			グループワークによるディスカッション、資料作成		
7	[演習：私たちの保全生態アクションプラン3] 発表			グループワークによるディスカッション、資料作成、発表		
8	[まとめ・試験]			スライドを使用した学習(復習)、筆記試験		
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率、授業態度、レポートおよび最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				保全生態の現場での実態を、具体的な資料・データを基に解説します。その学習を通して、自分が何をすべきか真剣に考えていきましょう。		
実務経験教員の経歴	環境コンサルタント会社社員等として13年、その後独立起業し14年、保全生態に関する業務(自然再生事業等)に従事している。樹木医、自然再生士、林業作業士、測量士。本校での講義は、12年目となる。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	環境アセスメント実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	荒井克人		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	18時間
授業概要、目的、授業の進め方	環境アセスメント実習は、道路工事やダム工事などにより、その地域の自然環境が改変される際に、事業前、事業中、事業後に必要となる大切なものです。環境アセスメントには、猛禽類（ワシタカ類）、鳥類、昆虫類、哺乳類、両性爬虫類、植物などの生態系調査や水質、大気、騒音、振動などの環境調査があります。本事業では、生態系の視点から、その地域の希少な動植物を保全するための、知識や考え方を実際の現場を使って、調査、データ整理、考察をおこなっていきます。				
学習目標 (到達目標)	実際の現場において、実務と同じ過程で取り組んでいくことにより、建設コンサルタント業務の基本となる知識や経験を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	授業中に参考図書、資料等を紹介する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	環境アセスメント概論（環境アセスメントとは？・目的・計画）		課題の説明、グループワークによる資料作成		
2	環境アセスメント実習（生態系調査）		グループワークによる資料作成(適宜提出)		
3	環境アセスメント実習&まとめ（データ整理など）		グループワークによる資料作成(適宜提出)		
4					
5					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
受講態度、出席日数、理解度から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			山の中に入るため、講義時は山歩きが出来る格好をお願いします		
実務経験教員の経歴	環境アセスメントを約20年間従事 2016年から現在に至るまで、環境アセスメントを中心とした会社を経営。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ビオトープ管理士試験対策	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	向 滉		実務授業の有無	×			
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間		
授業概要、目的、授業の進め方	9月27日に受験する、2級ビオトープ計画管理士資格試験に向け、教本を元に基礎的知識及び環境関連法について対策授業を行う。我が校はビオトープ管理士試験一部免除認定校です。 ビオトープ管理士は、自然や歴史、文化など地域で受け継がれる貴重な財産を活かしながら、持続可能で美しいまちづくり・くにづくりを实践する技術者、環境教育の指導者で、(公財)日本生態系協会が認証しています。						
学習目標 (到達目標)	ビオトープ計画管理士に必要な基礎的知識・専門的知識・法律などに関する理解を深め、試験に合格する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益財団法人日本生態系協会 監修『改訂版 ビオトープ管理士資格試験公式テキスト』						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	試験の概要、ビオトープとは「生態学」		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
2	過去問小テスト(生態学)、「ビオトープ論」		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
3	「環境関連法」		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
4	「環境関連法」		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
5	「環境関連法」		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
6	過去問小テスト(環境関連法)、専門科目「計画」		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
7	専門科目「計画」、および「施工」の一部		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
8	過去問小テスト(計画)、「小論文」		パワーポイント資料とテキストを使用した学習				
9	本試験		2級ビオトープ計画管理士受験				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率、受講態度、試験の可否によって総合的に評価する。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			11月5日(日)に長野市で受験します。採点は総合点でなく試験3科目+小論文においてそれぞれで基準をクリアしていなければ合格することができません。授業以外の時間も使い、しっかりと自己学習しましょう。				
実務経験教員の経歴	大学院にて生態学に関する研究を4年間遂行、神奈川県NPO法人における水田ビオトープの管理に3年参画。						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	地域づくりワークショップI	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	向混／外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全／自然環境保全	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	56時間
授業概要、目的、授業の進め方	展示物作成は地域情報発信に必要なスキルの1つであり、自然ガイドとしてエコツーリズムやグリーンツーリズムに関わる際にも必要となる。本授業では地域の振興や発信を担う自然科学館での展示物の企画と作成を実践する。				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・展示物の作成・配置・考え方を理解する。 ・来館者視点から展示を批評できる。 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適時配布する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	博物館の視察		見学。学芸員による展示概念の説明。		
2	展示の発案と企画		ワークショップ		
3	展示の企画、博物館担当者との協議		ワークショップ		
4	展示の企画、作成		ワークショップ、作成作業		
5	展示の作成		ワークショップ、作成作業		
6	展示の作成		ワークショップ、作成作業		
7	展示の作成		ワークショップ、作成作業		
8	展示物仕上げ、納品		配置作業。学芸員によるフィードバック。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業態度、標本の出来から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			来館者視点での展示の発案、企画、作成、納品のプロセスは、そのまま就業後の企画プロセスや展示作成に応用できるものです。貴重な経験ですので主体的に演習に挑んでください。		
実務経験教員の経歴	外部講師：博物館学芸員として10年以上展示作成に携わる。				

科目名	GIS実習		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保 全	対象学年	2	開講時期	後期（集中）	
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	GISソフトQGISを使用したオープンソースデータの使用や自然環境の空間解析を通じて、GISや地理空間解析の考え方やGISソフトの使用法を習得する。また、GISが実際の私たちの生活や自然環境保全、地域創成にどう役立つかについても実践を交えて紹介する。あらかじめ、関心のあるテーマ（例えばライチョウの保護や湿地の保全など）を絞っておいてください。					
学習目標 (到達目標)	QGISの基本的な操作技術の習得、地理空間解析に関する考え方の習得 GISを使い地域の情報を地図化し、課題を提示できる。生態系管理計画の基本について学ぶ。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	外部講師より提供されるテキストを使用する（地理情報システム説明、演習テキスト、PPTスライド）。 QGISのテキストは以下のページを利用ください（ https://gis-oer.github.io/gitbook/book/ ）					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	地理情報システムの概要と生態系管理に関する総論について解説する。各自、QGISのインストール作業、データの表示や入力を行う。特にオープンデータをダウンロードして重ね合わせを行う。			PCを使った実習。事前にQGISの安定リリース版をインストールしておく。 授業の後半では、GISのオーバーレイによって得られた知見について各自プレゼンする。		
2	地理情報システムのデータ操作と解析を行う。DEMによるラスター解析、バッファ解析、クロス集計をもとにして、自然環境のエリア特性を集計する。また、ポリゴンデータの入力、衛星画像の解析による緑地抽出とリモートセンシングの知識を学ぶ。			PCを使った実習。 授業の後半では、GISの集計解析によって得られた知見について各自プレゼンする。途中に、樹脂封入標本の作成や環境教育に関する実技演習を盛り込む。		
3	生物多様性情報の整備と活用に関する総論について解説し、実際の野生生物の分布情報を集積する。これらのデータをもとに、生息適地および気候変動の影響を推定する（MaxEnt法）。推定結果をもとに国立公園位置や登山道との関係について考察する。			PCを使った実習。ライチョウやブナ林の立地適地を予測します。授業の後半では、GISの集計解析によって得られた知見について各自プレゼンする。		
4	自然公園管理の実務についての講義を行ったのち、これまでの解析方法を参考にGISデータを活用して、妙高市や近隣地域などの保全や環境教育、活用計画の試案をつくる。各自関心ある課題について地図化して計画をつくる。			PCを使った実習。 授業の前半では、各自の関心課題について発表しグループをつくり解析作業を行う。授業後半では、とりまとめた計画について地図を交えてプレゼンする。		
5						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
受講態度、出席日数、GISに対する理解度から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				実習中に、PCにはQGISの長期安定リリース版、JAVAおよびMaxEnt、DIVAGISをインストールします。		
実務経験教員の経歴	外部講師：GIS上級技術者相当					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	自然ガイド基礎		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	八木 寛之		実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	将来自然の魅力や人を伝えるガイドになるために必要な自然に関する深い知識と、解説方法についての基礎を学ぶ。					
学習目標 (到達目標)	季節ごとに特徴的な自然を題材として、その魅力を十分に伝えられるようになることを目標とする。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考書や図鑑などの教材については授業の中で適宜紹介する。					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	[導入～この魅力的な自然の世界へ] 「自然」って何だ？あなたにとって「自然」とは？まずは自問自答			フィールド演習：清流公園（担当：八木）		
2	[植物群落モニタリング：人間と植生] 人間活動と植生の関わりは？潜在自然植生とは？			フィールド演習：ふれあいパーク（担当：八木）		
3	[キーワードはカクラン～河川生態系について～] 変化ありきの特殊な生態系である河川生態系の基礎を学ぶ。			フィールド演習：関川河川敷（担当：八木）		
4	[針葉樹林の歩き方] 森林伐採は自然破壊か？人と森の密接な関係について。			フィールド演習：演習林（担当：八木）		
5	[データで見る自然：森の測りかた] 自然を数値で把握する。森を測ってその価値を知る。			フィールド演習：妙高青少年自然の家（担当：八木）		
6	[水辺の生き物調査] 指標生物とは？水生昆虫等の捕獲調査及び水質判定。			フィールド演習：清流公園（担当：八木）		
7	[同定に物語を] 生物や自然環境の背景にある「物語」を語れるようになる。			仮想自然ガイドのプレゼン資料作成（担当：八木）		
8	[まとめ・試験] 発表による試験。			パワーポイントを使った発表(個人)（担当：八木）		
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率、授業態度、適宜行う課題発表、および最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				ひとくちに「自然環境」と言っても、対象・立場・目的…など様々な条件で、捉え方が変わってきます。これまでと違った視点で新しい発見をしていきましょう。また、その中で、自分の好き・得意なジャンルを見つけて伸ばしていきましょう。		
実務経験教員の経歴	環境コンサルタント会社社員等として13年、その後独立起業し14年、保全生態に関する業務(自然再生事業等)に従事している。樹木医、自然再生士、林業作業士、測量士。本校での講義は、12年目となる。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	自然ガイド基礎Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	杉山隆		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/ 自然環境保全	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	将来自然の魅力人を人に伝えるガイドになるために必要な自然に関する深い知識を拡げ、併せてその発信方法を学ぶことを目的とする。本授業では、身近な自然である里地里山に注目し、受講者全員で教育普及に関わる教材を作成していく。				
学習目標 (到達目標)	身近な地域の自然についての基礎を学び、その発信方法の一部を実行できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考書や図鑑などの教材については授業の中で適宜紹介する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス、アイスブレイク		フィールド演習、室内作業		
2	フィールドの視察		フィールド演習、室内作業		
3	フィールドの視察、野外調査		フィールド演習、室内作業		
4	教材作成、野外調査		フィールド演習、室内作業		
5	教材作成、野外調査		フィールド演習、室内作業		
6	教材作成、野外調査		フィールド演習、室内作業		
7	教材作成		フィールド演習、室内作業		
8	教材作成		フィールド演習、室内作業		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業態度、適宜行う課題発表、および最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			ひとくちに「自然環境」と言っても、対象・立場・目的…など様々な条件で、捉え方が変わってきます。これまでと違った視点で新しい発見をしていきましょう。また、その中で、自分の好き・得意なジャンルを見つけて伸ばしていきましょう。		
実務経験教員の経歴	事務局として通算11年自然学校の運営に携わる。その傍らフリーランスとしてインタープリター、ファシリテーター、ガイドなど活動。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	野生生物調査Ⅰ		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	齋藤達也		実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数		時間数	80時間	
授業概要、目的、授業の進め方	妙高市・上越市周辺を主な調査地とし、複数の生物分類群を対象とした野生生物調査を実施します。この過程の中で生物分類、野外調査、調査計画立案、データ処理といった多岐にわたるプロセスを経験し、実践的な野生生物の調査法を学ぶ。合わせて、Excel等を使ったデータの集計方法やクレンジング方法、解析方法についても学んでいく。					
学習目標 (到達目標)	1.野外における生物分類および野外調査方法の基礎を身につける。2.自分が責任をもって調査・ガイドできる生物分類群を見つける。3.野生生物調査を通して地域環境の変化を理解できるようになる。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考図書：植生管理学（朝倉書店）、植物生態の観察と研究（東海大学出版会）、保全生態学の技法（東京大学出版会）、野生生物保全技術（海游舎）、生物による環境調査事典（東京書籍）、指標生物（平凡社）、河川生態環境評価法（東京大学出版会）、森林立地調査法（博友社）、昆虫採集学（九州大学出版会）、やさしい土壌動物のしらべかた（合同出版）、いきもの六法（山と溪谷社）、各種専門図鑑類					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	OECMと身近な環境での生物調査の意義 調査計画の立案・調整			野外演習（調査技能）		
2	草本植物同定・調査			野外演習（調査技能）		
3	学校周辺の生物調査実践①			野外演習（調査技能）		
4	山野の鳥同定・鳥類センサス（個体数カウント、同定）			野外演習（調査技能）		
5	猛禽類調査（個体識別、行動記録）			野外演習（同定能力向上）		
6	学校周辺の生物調査実践②			野外演習（調査技能）		
7	学校周辺の生物調査実践③			野外演習（調査技能）		
8	高山植物観察（白馬五竜植物園）			野外演習（同定能力向上）		
9	昆虫（直翅目）同定・調査			野外演習（同定能力向上）		
10	秋の草本植物同定・調査			野外演習（同定能力向上）		
11	学校周辺の調査実践⑤			野外演習（調査技能）		
12	学校周辺の調査実践⑥			野外演習（調査技能）		
13	森林生態調査・毎木調査			野外演習（調査技能）		
14	冬の水鳥調査（個体数カウント、同定）			野外演習（同定能力向上）		
15	雪上フィールドサイン・調査			野外演習（同定能力向上）		
16	データ処理			室内演習		
	※実施の順番は天候等に応じて変更する					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 出席率、授業態度、主体性、野生生物調査技能から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				フィールド演習が基本であるため、野外活動に適した格好で参加すること。天候等の影響により授業内容が変更になることがある。		
実務経験教員の経歴	大学院にて生態学に関する研究を4年間遂行、神奈川県における水田ビオトープの管理に3年参加。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	自然観察実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	杉山隆		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	将来、ガイドを实践するにあたり必要となる自然、特に植物と植生に関する深い知識を得るとともに、生態系管理や外来種問題についての基礎的な考え方を実践的に学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	植物と植生に関する基礎的知識と植物同定方法の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜プリントを配布する				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1日目「農地と里山」 ・植生学の考え方 ・植物標本作成の意義 ・農地の植物の同定・採集、さく葉標本作成（調査・実技） ・城跡公園の落葉広葉樹林の視察 ・文化財における自然環境保全（OECMへの登録） 2日目「照葉樹林と低地林」 ・里山の樹木同定 ・照葉樹林植生の観察 3日目「高原の落葉広葉樹林」 ・ブナ・ミズナラ林の視察 ・落葉広葉樹の同定 4日目「ため池と湖沼」 ・中山間地域のため池、高田平野の自然湖沼の視察 ・水生動植物の同定		以下の学習方法による。 ・スライド・板書による学習 ・フィールド演習 ・実技（図鑑を用いた維管束植物同定、さく葉標本作成）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業態度、提出物から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			さく葉標本を実習後に提出。		
実務経験教員の経歴	杉山：事務局として通算11年自然学校の運営に携わる。その傍らフリーランスとしてインタープリター、ファシリテーター、ガイドなど活動。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	野生生物調査実習Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	向混／中野豊和		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	前期（集中）
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	火打山の亜高山帯・高山帯には、絶滅危惧種ライチョウが生息しており、その個体群は日本最北限、最少と知られている。本実習では、ライチョウの繁殖期にあたる5月後半に3泊4日の生態調査を実施し、その具体的な保全に貢献するデータを収集する。				
学習目標 （到達目標）	①火打山ライチョウ個体群の生態基礎データを取得する ②山岳環境における絶滅危惧種調査のプロセスを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜プリントを配布する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1日目：火打山（高谷地ヒュッテ）まで登山 2日目：ライチョウ調査（明け方～） 3日目：ライチョウ調査（明け方～） 4日目：火打山下山 （調査前日に食材等の買い出しを行う）		5月実習週（前半）に実施。 高谷地ヒュッテ泊を予定。 2日目、3日目の調査では、遭遇したライチョウ個体の位置、性別、繁殖状況、足環の色等を記録する。 調査範囲は亜高山帯～山頂。		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席、調査への参加姿勢、調査後レポートの完成度から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		火打山のライチョウは危機的な状況にあります。ライチョウおよび山岳環境の保全のために目的意識を持って実習に臨んでください。			
実務経験教員の経歴	中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション（1997～2006年）、インフィールド代表（個人事業、2006年～現在） ガイド歴20年以上。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	野生生物調査実習Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	向滉／杉山隆		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	後期（集中）
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	火打山の亜高山帯・高山帯には、絶滅危惧種ライチョウが生息しており、その個体群は日本最北限、最少と知られている。本実習では、植生調査によりライチョウの生息環境評価を行い、その具体的な保全に貢献するデータを収集する。				
学習目標 (到達目標)	①火打山ライチョウ個体群の生態基礎データを取得する ②山岳環境における絶滅危惧種調査のプロセスを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜プリントを配布する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1日目：火打山（高谷地ヒュッテ）まで登山 2日目：ライチョウ調査（明け方～） 3日目：ライチョウ調査（明け方～） 4日目：火打山下山 (調査前日に食材等の買い出し、テント・MSR・ガソリン等の準備を行う)		10月実習週に実施。 テント泊を予定。 2日目、3日目の調査では、ライチョウが記録されるエリアにて植生を調査し、ライチョウの生息環境を評価する。 調査範囲は亜高山帯～山頂。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席、調査への参加姿勢、調査後レポートの完成度から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			火打山のライチョウは危機的な状況にあります。ライチョウおよび山岳環境の保全のために目的意識を持って実習に臨んでください。1年次アルプス登山実習を参考に装備を準備してください。		
実務経験教員の経歴	杉山：事務局として通算11年自然学校の運営に携わる。その傍らフリーランスとしてインタープリター、ファシリテーター、ガイドなど活動。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	野生動物保護管理学実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	向混/外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	野生鳥獣の分布拡大とそれに伴う農林業被害・生態系変化は全国的な課題となっている。本実習では、妙高市鳥獣専門員の方々の作業現場に帯同しその業務内容を見学・体験することで、地方自治体における鳥獣管理対策の種類とその理念を学ぶことを目的とする。また、鳥獣管理の場で実践されるテレメトリー調査や果実の豊凶調査を体験し、野生動物管理のための調査方法についても理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンザルやイノシシ、その他中型哺乳類等の管理に関する知見を学ぶ ・テレメトリー調査と果実の豊凶調査を実践できるようになる 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜資料配布。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	鳥獣専門員の業務見学・体験		実地演習		
2	鳥獣専門員の業務見学・体験		実地演習		
3	鳥獣専門員の業務見学・体験		実地演習		
4	テレメトリー調査		実地演習		
5	果実の豊凶調査		実地演習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業姿勢、調査技術習熟レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			車両での移動が長くなりますので、酔い止め等の準備をお願いいたします。 また、鳥獣専門員の方々のお邪魔とならないように、i-nacの代表として恥ずかしくないふるまいをお願いします。		
実務経験教員の経歴	外部講師：鳥獣専門員。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	アルプス登山実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/渋沢暉/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	3年生がガイドとして1年生を顧客に見立て3泊4日のツアーを企画運営し、1年生に登山技術の基礎を指導する。また1年生は3年生のガイドングを学ぶとともに、冬山に入る前のアルプスを経験し、今後の冬山の实習に備える。				
学習目標 (到達目標)	基礎的な登山技術や無積雪期のテント泊での生活技術を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	3年生が作成した顧客用配布資料と国土地理院2万5千分1地形図を配布。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	学校で打ち合わせ・準備	行程の再確認・1年生の装備チェック・団体装備振り分け・食事メニューの決定・食料買い出し			
2	3泊4日の山行（立山を予定）	山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり			
3					
4					
5					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。		日中の最高気温は10度以下、最低気温によってはマイナスになることも考えられます。また10月初旬で雪が降ることもありますので、防寒具についてはしっかりとしたものを持ってきてください。 (装備) ザック、登山靴、レインウェア、防寒具(フリース、ダウン等)、着替え、ニット帽、グローブ、シュラフ、マット、ヘッドランプ(電池予備含む)、コッヘル、カトラリー、地図、コンパス、常備薬、サングラス、トイレトペーパー、メモ帳、ボールペン、時計等 別紙しおり参照 3年生より事前ガイダンスあり。			
実務経験教員の経歴	中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション(1997～2006年)、インフィールド代表(個人事業、2006年～現在) ガイド歴20年以上。 渋沢暉：登山ガイドステージII、スキーガイドステージI、日本雪崩ネットワークレベル1修了、ウィルダネス・ファーストエイド50h修了				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	自然ガイド企画・実践Ⅰ		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	遠藤晋/向況		実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ ビジネス/自然ガイド・環境保全 /自然環境保全	対象学年	2	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	山岳ガイド協会（以下：JMGA）が認定する自然ガイドに求められる自然の知識や基本スキルの習得を目的とする。本授業は、JMGA「自然ガイド」資格が課程認定されるカリキュラムに含まれる。					
学習目標 (到達目標)	場所、時期、対象にあわせ、1時間ほどのガイドプログラムの企画・運営ができるようになる ①ガイド実施前：装備、服装、挨拶、プログラム概要説明、リスク説明 ②ガイド実施中：自然の全体説明、詳細説明、自然への配慮、ペースメイク/タイムキープ、安全管理					
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	適宜、資料配布。					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス、ロープテクニック、ツェルト、搬送、ナビゲーション、事前運動			講義、演習、グループワーク		
2	危険生物、野外での傷病のリスク			講義		
3	自然ガイド像とは？ ガイド資料作成のノウハウ			講義、演習、グループワーク		
4	自然ガイド実践			実地演習、振り返り		
5	自然ガイド実践			実地演習、振り返り		
6	自然ガイド実践			実地演習、振り返り		
7	自然ガイド実践			実地演習、振り返り		
8	ロープテクニック、ツェルト、搬送、ナビゲーション、事前運動			講義、演習、グループワーク		
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率、授業姿勢、ガイドプログラムの内容から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				この科目では、身近な自然や地域の文化・民俗を紹介できることが大切です。日々の情報収集を心がけてください。 3年次には、「自然ガイド検定対策Ⅰ・Ⅱ」の実習でガイドの実技試験があるので、この授業でガイド練習をしっかりと積むようにしてください。		
実務経験教員の経歴	遠藤：自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。地元温泉組合、自然ガイド団体と連携した着地型エコツアーを企画・コーディネート。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	環境教育実習		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	向滉		実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	本実習では、環境教育の場で多用される自然体験プログラムを数例実践し、その運用方法と環境教育上の意義を学ぶ。また、3年生の自然解説を受講し、自然体験プログラムを客目線でみつめ、環境教育的コンテンツがプログラムの中にどのように組み込まれているのかを学ぶ。					
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境教育の観点から自然体験教育プログラムを評価できる。 ● 自然体験教育の代表的コンテンツを1, 2例実践できる。 					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜、資料配布。					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	実習ガイダンス（自然体験と環境教育） 自然体験教育実践			講義、グループワーク		
2	自然体験教育実践 クラフトワーク			グループワーク		
3	自然ガイド・環境保全学科3年生による自然解説の受講①			実地演習		
4	自然ガイド・環境保全学科3年生による自然解説の受講② プログラムに対する考察、検討			実地演習、振り返り、レポート作成		
5						
6						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率、授業姿勢、グループ討議、レポート作成、発表内容から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				前半2日はワークショップ形式（参加者主体）で行います。多様な意見で学びが深められるよう、遅刻、欠席のないようにして下さい。 後半2日は自然ガイド・環境保全学科3年生との合同実習となります。		
実務経験教員の経歴	大学院にて生態学に関する研究を4年間遂行、神奈川県における水田ビオトープの管理に3年参画。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	自然ガイドプログラム企画・運営Ⅰ	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	演習
担当教員	向滉		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	農地、中でも水田には、絶滅危惧種を含む多様な生物が分布しており、地域の環境保全上、重要な存在である。各地の自然学校等では水田やその周りでの生き物調べをよくイベント化している。水田の生物の理解を深めることは日本の様々な地域で調査活動・自然体験教育を行う上での礎となる。本授業では、水田の生物調査を通じて、水田周辺での生物調査手法およびデータのとりまとめ方法、生物の魅せ方を学ぶ。主に妙高市内の坂下新田、上小沢で調査を行う予定である。				
学習目標 (到達目標)	両生類、魚類、淡水貝類、昆虫（ウンカ類を含む）、植物等の大まかな分類が可能になる。 水田の生物の調査法と観察ポイントを理解し、どのように魅せればよいか実践できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考図書：絵解きで調べる田んぼの生きもの（文一総合出版）、減農薬のための田の虫図鑑（農文協）、日本のカエルフィールドガイド（文一総合出版）、百姓仕事がつくるフィールドガイド 田んぼの生き物（築地書館）、ヤゴハンドブック（文一総合出版）、水田を守るとはどういうことか（農文協）、里山・遊休農地を生かす（農文協）、にぎやかな田んぼ（京都通信社）、なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか（京都大学学術出版会）、「ただの虫」を無視しない農業（築地書館）、カエルのきもち（晶文社出版）、ため池の自然（信山社サイテック）、自然生態修復工学入門（農文協）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス、里山の生物はなぜ絶滅の危機に瀕しているのか？		座学および野外演習		
2	希少淡水魚類の保護活動① 好適環境研究の補助		座学および野外演習		
3	希少淡水魚類の保護活動② 生息環境調査、市民による保全活動の意義		座学および野外演習		
4	希少淡水魚類の保護活動② 生息環境調査		座学および野外演習		
5	希少淡水魚類の保護活動② 生息環境調査		座学および野外演習		
6	希少淡水魚類の保護活動② 生息環境調査		座学および野外演習		
7	希少淡水魚類の保護活動② 生息分布の確認		座学および野外演習		
8	希少淡水魚類の保護活動② 調査結果のデータ解析・サンプル処理		座学および野外演習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業態度、主体性、グループワークにおける協調性から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			グループワーク、集団演習が主体の授業であるため、協調性が求められます。出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行いません。		
実務経験教員の経歴		大学院にて生態学に関する研究を4年間遂行、神奈川県における水田ビオトープの管理に3年参画。			

科目名	アウトドアスポーツ実習（フィットネス）		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	丸山さき／服部正秋		実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ／自然ガイド・環境保全 ／自然環境保全／野外教育・アウト ドアスポーツ/キャンプビジネス	対象学年	2	開講時期	後期	
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	40時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	<p>①日常生活に取り入れやすいノルディックウォーキングやヨガの知識や実際に学び、自身の健康増進のフィットネスとして理解を深める。</p> <p>②アウトドアスポーツの中で、人気が高まっているトレイルランニングの知識や技術を学ぶ事で、これからのアウトドアスポーツ業界の動向を深めると共に、実際にレースに参加しトレイルランニングの魅力を学ぶ。</p> <p>③現代社会の中で健康志向が高まっている理由とその重要性を理解し、アウトドアスポーツから現代の健康問題について考える。</p>					
学習目標 (到達目標)	昨今の現代社会における「ライトアウトドアスポーツ」のニーズの理解（レポート、実践）					
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	斑尾トレイルランニングマップ、トレイルランニングDVD、日本ノルディックフィットネス協会アクティビティリーダーテキスト、ノルディックポール					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考				
1	【1日目】トレイルランニング概要	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・短パンもしくはスパッツ（七分・ロングなんでも良い） ・TシャツもしくはロングT・ランニングでも可（化繊） ・日よけ（帽子・サンバイザー・サングラスなど） ・トレイルランニングシューズ（もしくはランニングシューズ） ・トレイル専用小型リュックサック（もしくは小型のサックできるだけ小さいもの） ・くま鈴（ある人は持ってきてください） ・行動食（小型ザックに入れていきます） ・水分（トレラン中に補給するもの。終了後に補給するもの2つあったほうが良い） ・防寒着（薄手のウインドブレーカー、レインジャケットなど） ・着替え等（多少の雨でも行いますし、汗をかくと思いません。終わった後の着替え） ・虫除け（なくてもいいですが、あったほうがいい） 				
2	①実際にトレイルを走ってみよう!! (トレイルで実践的なテクニックを学ぶ) (2.6kmコースを下見します)					
3	②How toトレイルランニング					
4	(身体の使い方/上り下りの走り方/トレーニング方法/レースでの心構え)					
5	【2日目】ヨガ					
6	ヨガ実践とヨガの動向【市場】について 昼食					
7	現代社会での健康問題について。					
8	【3日目】ノルディックウォーキング概要 (ノルディックウォーキングAL養成講座)					
9	①ノルディックウォーキングの知識と実際 (ヘルスレベル・フィットネスレベル・スポーツレベル)					
10	②ノルディックフィットネスの実際 (ウォーミングアップ・クールダウン・筋トレ・コーディネーション)					
11	【4日目】・レースデビュー!!					
12	トレイルランニングレースに出場しよう!!					
13	斑尾トレイルランニングレースに参加し、レース、イベントの雰囲気を実際に肌で感じながら思いっきり楽しもう！また自身の体力の限界を知ることによって今後の身体づくりの必要性を知ろう！					
14						
評価方法・成績評価基準		履修上の注意				
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴	各自自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	エコツアー実習		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	遠藤晋/外部講師		実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全	対象学年	3	開講時期	後期（集中）	
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>①エコツーリズムの概念を理解し、里山里海地域での可能性を探る。</p> <p>②自然観光と地域づくりの先進地を訪問し、エコツーリズムの取り組み事例を学ぶ。</p> <p>③訪問した先進地において体験・評価した地域資源をベースに、既存資源を新たに活用したエコツアーを企画・プレゼンし、企画にかかる一連のプロセスを経験する。</p>					
学習目標 (到達目標)	地域の資源特性を活用した着地型エコツアー商品を企画できるようになる					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料を適宜配布。関連情報のURL等を随時連絡。					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス後、実習地（自然観光の先進地）に移動。ツアー企画会議（コンセプトづくり、翌日の打合せ等）		活動主体（チーム or 個人）は、受講生が話し合って決定します。			
2	現地資源調査、キーパーソンのヒアリング、プレゼン資料,ppt作成。ツアー企画会議（ヒアリング・資源調査まとめ、コンセプトづくり、翌日の打合せ等）		各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。			
3	現地資源調査、キーパーソンのヒアリング、プレゼン資料,ppt作成。ツアー企画会議（ヒアリング・資源調査まとめ、コンセプトづくり、翌日の打合せ等）		各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。			
4	<p>■午前：プレゼン資料,ppt最終チェック、発表準備</p> <p>■午後：企画プレゼン、実習まとめ（企画、活動振り返り等）。終了後、妙高に移動。</p>		各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
<p>発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行います。</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>			<p>着地型の旅行商品造成のプロセス（現地資源調査、ヒアリング、旅行商品の企画・プレゼン等）を実践します。プレゼンには、現地の観光関係者（宿泊業、観光協会、自治体観光課等）が出席しますので、実際の仕事として実習に臨むようにしてください。</p>			
実務経験教員の経歴	自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。地元温泉組合、自然ガイド団体と連携した着地型エコツアーを企画・コーディネート。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ガイド検定筆記試験対策	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	講義
担当教員	遠藤 晋		実務授業の有無	×	
対象学科	自然環境保全	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	卒業年次の6月に受験する、公益社団法人日本山岳ガイド協会の第一次試験（筆記試験）に向けた対策として、教本を元に自然ガイドの基礎的知識及び専門的知識分野について対策授業を行う。				
学習目標 (到達目標)	ガイドに必要な基礎的知識・専門的知識・安全管理技術などに関する理解を深め、筆記試験に合格する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編 『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』『自然ガイド・登山ガイド職能別ガイド検定試験筆記試験問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	【基礎的知識】第1章 基礎的知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
2	【基礎的知識】第1章 基礎的知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
3	【基礎的知識】第2章ガイド業務に関する知識と法律、第3章自然解説技術の基礎		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
4	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
5	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
6	【専門知識】第2章ガイドに必要なロープワーク、第3章ガイドの安全管理技術		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
7	【専門知識】第5章コミュニケーションの技術、第6章ガイド業務とは、第7回までの授業内容の再確認		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
8	基礎的知識及び専門知識の範囲内での模擬試験		授業内容全般から幅広く出題		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び小テスト・学期末テストにより評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			本授業は筆記試験本番に向けての知識ベース作りとなるので、授業以外の時間も使い、しっかりと自己学習をすること。		
実務経験教員の経歴	自然ガイド歴5年・専門学校での講師歴1年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	標本学Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	向混		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全／自然環境保全	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	生物標本はかつてその時その場所にその生物種が存在したことを証明する学術上極めて重要な資料である。標本の収集・蓄積は自然史研究はもちろん様々な自然環境調査の場において肝要であり、自然解説や各種教育の基礎ともなっている。本授業では、標本の学術的重要性、その作成方法、管理方法について概説する。				
学習目標 (到達目標)	①生物標本を自力で作成できるようになる、②標本の学術的重要性を口述できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	標本の作り方－自然を記録に残そう(大阪市立自然史博物館叢書)、標本学 第2版: 自然史標本の収集と管理(国立科学博物館叢書)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	昆虫採集		晩秋に用いるチョウを採集する。		
2	科学館研究員による標本指導		サンプルを使い作成		
3	科学館研究員による標本指導		サンプルを使い作成		
4	科学館研究員による標本指導		サンプルを使い作成		
5	チョウの標本作成		サンプルを使い作成		
6	チョウの標本作成		サンプルを使い作成		
7	ドイツ箱への保管		サンプルを使い作成		
8	その他の標本作成		サンプルを使い作成		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び小テスト・学期末テストにより評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			標本作成には日々の細やかな管理が求められます。自分が担当した標本は責任をもって腐らないように管理をしましょう。		
実務経験教員の経歴	大学院にて生態学に関する研究を4年間遂行、神奈川県NPO法人における水田ビオトープの管理に3年参画。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	卒業研究		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	演習
担当教員	向滉		実務授業の有無	×		
対象学科	自然環境保全	対象学年	2	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数		時間数	104時間	
授業概要、目的、授業の進め方	卒業研究発表会までの1年を使い、「生物」や「地域の自然資源」に関する研究を行う。地域社会や環境・野外教育界等のニーズを把握し、その解決・発展に貢献する研究テーマを設定することが原則である。教員によるサポートを受けつつも、主体的に研究を推進する意欲が求められる。研究成果は自身の力で取りまとめ、2月の発表会で口頭発表を行う。					
学習目標 (到達目標)	1.社会的ニーズを要約・把握し、その解決案を考えることができる。2.自身でたてた計画に基づいて研究を遂行できる。3.研究論文という形で1年間の研究活動をまとめられる。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	卒業研究の趣旨説明 テーマの決め方 情報収集方法			板書を使用した学習、テキスト (pp39-74)		
2	学生ごとにテーマの決定を行う(教員が個別に対応する)			学生による情報収集、計画書作成		
3	テーマの決定と計画の作成締め切り			学生による情報収集、計画書作成		
4	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
5	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
6	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
7	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
8	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
9	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
10	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
11	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
12	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
13	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
14	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
15	学生ごとの調査・制作(教員が個別に対応する)			学生による野外調査・教材作成・データ整理等		
16	研究発表練習			パワーポイントを使った研究発表練習		
	※授業時間外に調査・執筆を行うことが想定されます。					
	※1/23-27は卒研実習となります。この期間に卒論と発表資料を仕上げることを目標とします。					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 出席率、授業態度、卒業研究の内容から総合的に評価する。成績評価基準は、優(80点以上)・良(60点以上)・可(40点以上)・付加(39点以下)とする。				卒業研究で経験する過程(計画立案、データ収集・とりまとめ、レポート作成)は社会に出てからも経験するものです。また、卒業研究における調査や解析、執筆はいわゆる授業時間の外でも行うことが想定されます。積極的に取り組み、自分のスキルアップにも繋げ、3年間の集大成としてください。なお、完成度の高い研究は、実際の地域社会政策への提言や学術学会等の雑誌投稿を推奨しています。		
実務経験教員の経歴	大学院にて生態学に関する研究を4年間遂行、神奈川県NPO法人における水田ビオトープの管理に3年参画。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	自然体験インターンシップ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	受入企業・団体		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全、自然環境保全	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	50時間
授業概要、目的、授業の進め方	自然体験施設での就業体験を通じて、自然体験施設の教育理念や機能を学び、自然体験プログラムの企画・運営の実際、ガイドに際してのホスピタリティの在り方を体得する。				
学習目標 (到達目標)	自然体験施設の教育理念と機能、自然体験に必要なホスピタリティを理解し、それに即した自然体験プログラムを企画できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜配布する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	受入れおよび業務内容についての説明／自然体験施設内での業務体験		自然体験施設での体験		
2	自然体験施設内での業務体験		自然体験施設での体験		
3	自然体験施設内での業務体験		自然体験施設での体験		
4	自然体験施設内での業務体験		自然体験施設での体験		
5	自然体験施設内での業務体験		自然体験施設での体験		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			<ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 		
実務経験教員の経歴	インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	インターンシップ実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	向混/受入企業・団体		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全、自然環境保全	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位数		時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築				
学習目標 (到達目標)	①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②自然体験分野および環境調査・保全分野の業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■インターンシップ実習の手引き、■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップガイダンス、受入先の希望調査		希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。		
2	受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出		学生調書(excel)、動機書(word)をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。		
3	受入先への連絡(挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど)		学生自身が受入担当者に電話連絡		
4	受入先における研修(7月下旬から9月中旬の期間で実働15日以上)		研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。		
5	研修後、インターンシップ報告書を作成。		報告書を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、インターンシップ日誌の内容(業務遂行レベル)、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間:実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。		
実務経験教員の経歴	インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	インターンシップ実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	向混/受入企業・団体		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全、自然環境保全	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	120時間以上
授業概要、目的、授業の進め方	「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築				
学習目標 (到達目標)	①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②自然体験分野および環境調査・保全分野の業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■インターンシップ実習の手引き、■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップガイダンス、受入先の希望調査		希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。		
2	受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出		学生調書 (excel)、動機書 (word) をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。		
3	受入先への連絡 (挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど)		学生自身が受入担当者に電話連絡		
4	受入先における研修 (7月下旬から9月中旬の期間で実働15日以上)		研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。		
5	研修後、インターンシップ報告書を作成。		報告書を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、インターンシップ日誌の内容 (業務遂行レベル)、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			<ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 		
実務経験教員の経歴	インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ホームルーム	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	遠藤晋/向況		実務授業の有無	×			
対象学科	全学科	対象学年	1	開講時期	通年		
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間		
授業概要、目的、授業の進め方	<p>①実習、学校行事等のオリエンテーションを通し、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。</p> <p>②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕のマインドを養う。</p> <p>③学科別オリテ、海外研修オリテ、特別授業等を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。</p>						
学習目標 (到達目標)	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	海外研修オリエンテーション（406/407）		12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査				
2	学科別HR①（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
4	学科別HR②（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
5	学科別HR③（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
6	学科別HR④（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
7	実習オリエンテーション（7月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
8	学科別HR⑤（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
9	学科別HR⑥（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
10	実習オリエンテーション（11月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
11	学科別HR⑦（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
12	学科別HR⑧（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
13	就職研修オリエンテーション		12月に実施する就職研修のガイダンス				
14	学科別HR⑨（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
15	実習オリエンテーション（1月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
16	就職状況報告会		3年生が就職活動状況を発表				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・アウトドアスポーツ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）				
実務経験教員の経歴							

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ホームルーム	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×			
対象学科	全学科	対象学年	2	開講時期	通年		
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間		
授業概要、目的、授業の進め方	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。 ②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。						
学習目標 (到達目標)	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	海外研修オリエンテーション（406/407）		12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査				
2	学科別HR①（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
4	学科別HR②（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
5	学科別HR③（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
6	学科別HR④（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
7	実習オリエンテーション（7月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
8	学科別HR⑤（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
9	学科別HR⑥（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
10	実習オリエンテーション（11月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
11	学科別HR⑦（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
12	学科別HR⑧（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
13	就職研修オリエンテーション		12月に実施する就職研修のガイダンス				
14	学科別HR⑨（MP→406/407 OES→409 NGC→408）		学科別に分かれ、指定の教室で活動				
15	実習オリエンテーション（1月分）		履修する実習別にガイダンスを受講				
16	就職状況報告会		3年生が就職活動状況を発表				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・アウトドアプロ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）				
実務経験教員の経歴							

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	特別授業	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	外部講師		実務授業の有無	×			
対象学科	全学科	対象学年	1	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間		
授業概要、目的、 授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る						
学習目標 (到達目標)	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	各業界における先駆者や業界を開拓している方からの講演		講演形式、筆記用具、				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。							
実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	特別授業	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	外部講師	実務授業の有無		×	
対象学科	全学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、 授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標 (到達目標)	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	各業界における先駆者や業界を開拓している方からの講演		講演形式、筆記用具、		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	海外研修	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ ビジネス/自然ガイド・環境保全 /自然環境保全/山岳プロ/アウト ドアプロインストラクター	対象学年	1	開講時期	後期（集中）
必修・選択	必修	単位数		時間数	80時間
授業概要、目的、 授業の進め方	外国人旅行者への対応能力の向上と、海外における先進的なエコツーリズム・アウトドア・クライミング業界の動きを学ぶため、7～10日程度の海外研修を実施する。研修中はインストラクターが帯同し、滞在国における学びや生活の支援を頂きつつ、アウトドア・クライミング施設や自然公園等をご案内頂く。2019年度はアメリカ合衆国ポーズマンおよびイエローストーン国立公園で研修を行う。				
学習目標 (到達目標)	①英語によるコミュニケーション能力の向上 ②海外でのアウトドア・環境保全・クライミングの流れについて自分なりの考え方をもつ				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	海外旅行や研修先の国に関する書籍（地球の歩き方等）を各自読んでおくこと。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1～2日目：移動（成田/羽田⇒ポーズマン） 3日目～ ・オオカミなどの観察や野生動物の生態系についての学習 ・アメリカの国立公園における野生動物の保護管理についての学習 ・ポーズマンのスキー場における雪崩管理、スキーパトロールについての学習 ・クライミングジムの管理運営等についての学習 ・地元の方との英語コミュニケーション (内容と研修日数は年により変動) 最終日：移動（ポーズマン⇒成田/羽田）		学習方法は以下の通り。 ・地元のガイド・インストラクターからのインタープリテーションを受講 ・日本国内の自然についての英語によるインタープリテーションの実践 ・グループワーク・ディスカッション ・英語による地元の方とのコミュニケーション		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席、生活態度、イベントへの参加姿勢、協調性、研修後のレポートの完成度から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		海外研修では集団活動がメインとなり、日本と研修先の国では文化や常識も異なります。協調性を持ち、慎重に行動してください。また、英語でのコミュニケーション能力を向上させる機会ですので、積極的なイベントへの参加が求められます。			
実務経験教員の経歴					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	就職準備研修Ⅰ		授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×		
対象学科	自然環境保全/キャンプビジネス/ アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期	後期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	就職活動に対しての心構えを持ち、面接試験対策、特に集団面接のための技術を習得する。					
学習目標 (到達目標)	就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	<ul style="list-style-type: none"> ■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材） ■模擬面接質問内容 ■面接入退室資料 ■模擬面接スケジュール表 ■グループ面接名簿 ■面接評定表 ■進路希望調査 ■その他資料（ワークシート）を適宜配布 					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	個人面接_模擬面接の実施 * 15分程度（フィードバック含む）/人		<ul style="list-style-type: none"> ■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、個人面接の実施 			
2	集団面接_模擬面接の実施 * 10分間/人の面接とフィードバックで50分～1時間程度		<ul style="list-style-type: none"> ■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、集団面接の実施 			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。			
実務経験教員の経歴	専門学校での就職活動指導歴10年以上。					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	就職準備研修Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	自然環境保全/キャンプビジネス/ アウトドアインストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	社会人としての心構えを持ち、基礎的なビジネスマナーを習得する。				
学習目標 (到達目標)	社会人としての心構え、ビジネスマナー、税金、納税のしくみ等を学ぶ。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	・筆記用具・スーツ・テキスト（講師準備）・名刺入れ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ビジネスマナー研修（基本的ビジネスマナーと実践）		外部講師講義 ミワアシスタンス		
2	ビジネスマナー研修（給与のしくみについて）		学校法人新潟総合学園人材開発部		
3	ビジネスマナー研修（租税教育）		外部講師 小菅税理士事務所		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下) とする。			・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。		
実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義5年以上				